

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年2月8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670101573
法人名	特定非営利活動法人 はなまる会
事業所名	グループホーム はなまる岩瀬
所在地	富山市西宮 1-1
自己評価作成日	平成29年 1月 5日
評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成29年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○岩瀬曳山祭り・流しそうめん・敬老会・クリスマス会等の行事を常時企画して、楽しみのある生活を送れるよう職員一同取り組んでいる。</p> <p>○毎月のカレンダーや壁面装飾を利用者と一緒に楽しみながら制作している。</p> <p>○食事は毎食作りたての物を提供し職員も同じ物を一緒に食べている。また、好き嫌いにも食材を変更するなどして、食事が楽しくなるように配慮している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者・職員はコミュニケーションを大切にして、利用者一人ひとりの思いを汲み取りながら介護サービスに取り組み信頼関係を深めている。利用者は広く和みのある共有空間でゆったりと過ごしている。食材には気を配り美味しく楽しく食事を共にしながら和やかに話をして、利用者の思いが自然に表出できるように努めている。職員は終末期の看取り経験をしてきており利用者・家族の意向に十分応えられるように研鑽している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム はなまる岩瀬

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	活動理念を事業所入口事務所前に掲示して、職員の目にふれるようにしている。	理念が具体的な実践に活かされていくように、職員会議で事例を挙げての説明の他、日常業務の中で自分の身に置き換えて考え、より質の高いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所内のホールを地域住民の方に開放している。地域の方のボランティアの受け入れも積極的に行っている。	事業所開設以来地域の住民との関係作りに努め、利用者の髪の毛の手入れボランティア他各種ボランティアの受け入れなどで交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の周辺や訪問者等に、認知症が疑われる方がおられる時は、地域包括支援センターへ情報提供することもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や町内会・地域包括支援センターの職員・利用者家族と一緒に開催している。会議で頂いた意見を業務改善の参考にしている。ここ数年、開催できていない。	時間的な要因等で開催されていない。	地域に密着した存在として理解と協力が得られるよう、これまでのメンバーにも参加を依頼し、定期的に会議を開催する体制作りが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターが実施する事例検討会等に積極的に参加している。	市との関係は主に包括支援センターを通して行っており、介護相談員訪問時でのコミュニケーションも取れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外しておらず、自動ドアで自由に入出りできるようにしている。身体拘束は必要に応じて、家族に説明し同意書を交わしてから拘束を行う事を想定している。	身体拘束をしないケアについて日頃〇JTを通して徹底している。どうしても必要という状況に至った時の対応についても事例研修で対応方法を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について正しく認識し、職員会議等でも話し合っている。虐待と疑われるものについては、関係各所と連携して防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用実績があり、関係者と連携して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時ともに説明を行い、同意を得てから契約書・解約届を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡の際に、意見・要望を聞き取り必要に応じて、職員会議等で話し合い業務に反映している。	利用者の入居期間が長くなっており家族からは現状維持の要望が多くなっている。訪問時には現状を伝えながら要望を聞いている。利用者の思いを日常会話の中で汲み取るように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で得られた意見や提案は、可能な限り業務に取り入れ反映している。	職員の勤務年数も長く、相互理解もできているので、小さなことでも遠慮なく言うことで、チーフや管理者と知恵を出し合って介護サービスの改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則及び賃金規程に基づき、昇給・各種手当を設けている。また、職員個々の自主性を重んじ職員環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の奨励及び、経験に応じて各種研修や講習会や実践者研修への受講推薦を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域で開催されている各種検討会への参加や富山県認知症連絡協議会へ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人の具体的な意見や要望に耳を傾け、安心できるように心掛けている。また、新規の利用者には、言葉遣いにも注意して関わる時間を多くしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など家族と話す機会には、困っている事に耳を傾け、利用者の様子を話すなどしてコミュニケーションをとっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要なサービスを見極め当施設では対応できないものについては、他のサービスの情報提供や助言をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の身に置き換えた対応を考え相手の気持ちになって接するようにしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、普段の様子を伝えたり、世間話などしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身の利用者が多く、昔話を楽しそうにしている事が多い。	意思表示が思うようにならなくなってきた状況の中で、馴染みの関係が途絶えないように、入居時に聞き出した利用者の生活状況を参考にして、利用者との会話の中から汲み取るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性に応じて、食事の際の席などを決めている。必要に応じて職員が間に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族から相談を受けた際は、サービスが終了していても常時対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	以前からの暮らし方や本人からの希望や意向を尊重し、対応するようにしている。	職員は、日常の会話の中で利用者が思いを言葉にしやすいように、聞き方を工夫している。思いを口にはできない方には、その時の表情から読み取ったり、家族に確認するなどし把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに目を通したり、本人や家族からの話を聞き情報を収集し、これまでの経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合わせてレクリエーション活動に誘ったり、その日の体調などを見て静養してもらっている。話をする中で現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族・職員など様々な方からの意見や要望・アイデアを踏まえて介護計画を作成している。	職員会議での意見や、生活の様子を伝えた時に聞いた家族の要望を取り入れて介護計画を作成している。例えば、家族が体重の維持ができるようにと希望された時は高カロリー食を摂取する計画を立てケアの実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に加え、体調の変化や職員が気付いた事を記入しており、情報共有に努めている。内容に基づいてサービスを評価し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族とは連絡を密に取りながら、その時々報告や情報収集をしている。必要と思われることに対しては、サービス以外でも許される限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動しているボランティアやサークルの方々を積極的に受け入れている。交流を通し、楽しみの多い暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診を受け健康管理をしている。体調不良などの時は連絡を取り、必要に応じて往診や受診をしたり、総合病院を紹介してもらっている。	かかりつけ医が月2回の往診を行い看取り時においてもフォローしている。遠方の家族とは普段から連絡を取り合い、緊急時も家族との連絡で、職員付添いで受診や往診を依頼し適切な医療が受けられる対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気付いた事があれば看護師に報告し、情報共有をしている。利用者の体調に変化があれば看護師から主治医に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては介護情報を提出して、治療の参考にしてもらっている。また、総合病院に設置してある地域医療連携室とも連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所で、できる事・できない事を説明して同意を得ている。入居後も状況に応じて連絡を取りその都度、確認してできる限り尊重した支援に努めている。	入居時に説明を行い同意書に記入してもらっている。状態が変化した段階の都度、かかりつけ医と家族の話し合いの場を設け、家族の希望を確認している。かかりつけ医も協力的で、経験豊富なスタッフと共に家族も含めた関係者全員での看取りの実践を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に1回の避難訓練や救命救急講習を受け、AEDの使用方法も学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は行っているがそれ以外の災害については訓練は行っていない。	町内には地域の消防団があり自主防災の意識のもと活動されている。法人内合同の避難訓練を行い、消防署員の指示で実際に想定した逃げ遅れ者の救助方法の訓練などを行っている。	地域の防災情報の共有を図り、災害対策の協力体制が築けるような取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格とプライバシー確保の為、入浴時やトイレ時には、カーテンなどを使い対応している。	月1回の職員会議の中で、気づいた点や注意事項を伝え合い、対応方法の確認をしながら日常の意識づけとなるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談の中から本人の思いや希望を聞き、実現できるようにできるだけ支援している。意思表示のできない人は、表情などを確認して思いに沿えるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが、自分のペースに合わせて毎日過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月偶数週に、訪問利用でカット・カラーなど自分好みの髪型にしている。入浴後には、化粧水などで肌の手入れもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いに合わせて、食材や調理方法を変えている。	職員が食卓を共にし一緒に美味しく食べれるよう、一人ひとりに合った形態や食材変更で食事提供している。手作りおやつや移動ラーメン車を呼ぶアイデアが職員から出され食の楽しみが持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は必ず確認している。必要に応じて、摂取を促したり食べやすいよう・飲みやすいように形態を変えるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に応じた方法で口腔ケアを行っている。義歯は週に2回消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力や尿意・便意の有無など一人ひとりの状態に合った支援を行っている。	排泄自立の方もおられ、一人ひとりに合った時間毎の誘導や介助を行っている。そわそわした様子を見てトイレへの声かけをするなど、できるだけ失禁なく快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取や運動を促している。改善しない場合は、薬でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中という制約はあるが、その中で順番の工夫などして、できるだけ希望にあわせるようにしている。	本人の希望が聞かれたらすぐの入浴を勧めている。腹が痛い、今は入りたくないと言われる事もあるが、順番を変えたり気分が変わるタイミングを見て声をかける事で気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や希望に沿った休憩時間作りの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの服薬情報は個々のファイルに保管している。職員から昼夜の状況を聞き取り、主治医に上申している。内服に変更があった場合は、職員に報告し観察してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみ等の軽作業を手伝ってもらっている。毎日のレクリエーション活動も行っており、状態や体調に応じて参加してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候に応じて、散歩やドライブに出かけている。	天候を見て2～3人で、近所へ散歩や希望の買い物に出かけている。花見や祭りの曳山見物など季節のイベントに出かける事も、日頃の会話の中で話ながら楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により、お金を預かったりしている。必要に応じて、手渡して出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話機を貸し出したり、取り次いだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はいつも清潔を心掛け清掃している。壁面には、その月のカレンダーや季節を感じとれるようにしている。	ホールは開放的で明るく風が通り1年中過ごしやすい場所となっている。季節を感じる掲示物で和やかな雰囲気が出ている。感染症対策の環境整備には十分に配慮し、次亜塩素酸噴霧器や手指消毒器の設置、毎日の清掃徹底など継続している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はショートステイサービスの利用者も使用しており、気の合う人同士が会話を楽しんでもらえるようにしている。独りになりたいたいときなどは、居室に誘導している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が、自宅で使い慣れた馴染みの物を持ち込むことができる。自宅での暮らしに近い生活ができるように工夫している。	自宅で使い慣れた身の回りの品を持参してもらっている。ベッドは備え付けでありタンスやイス、テレビなどを置き思い思いに過ごせるようにしている。冬期間は加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の壁には、いたる所に手すりが設置されており、車椅子同士がすれ違うこともできる。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームはなまる岩瀬
 作成日 平成 29年 2月 23日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域に密着した存在として理解と協力が得られるよう、これまでのメンバーにも参加を依頼し、定期的に会議を開催する体制作りが期待される。	2ヵ月に1度の運営推進会議の実施。	年間予定として運営推進会議の開催日を決めておき、地域包括支援センターや地域の民生委員に配布しておく。また議題がないときでも開催し情報交換の場とする。	1年
2	13	地域の防災情報の共有を図り、防災対策の協力体制が築けるような取組みが期待される。	災害時などに地域住民の協力が得られる。	町内との良好な関係作りに努め、地域住民の参加を含めて年2回の避難訓練を実施する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。